

第 11(5)話「学苑祭ダッシュ」

学苑祭が終わり、心にぽっかり穴があいたように感じている人も多いただろう。
またこの時期、部活を引退して、寂寞の想いを抱いている高3生もいるだろう。
いわゆる「ロス」と呼ばれる状態だ。
しかし、何も得ていない人が、ロスに陥ることはない。
多くのものを得たからこそ、大きなロスを感じている。
ロスは即ちゲインなり。

その意味で、心にできたのは、ただの空洞ではない。器だ。
心に空洞が広がったのではなくて、人としての器が大きくなったのだ。

大事なことは、大きくなった器に、これから何を入れていくか。
ゴミやガラクタ、みにくいものを入れるのではなく、
自分を高めてくれるもの、質の高いもの、美しいもので、心の器をいっぱいにしてほしい。

今回ロスを感じていない人も、これからの人生において、大切な人と別れたり、愛するペットを亡くしたり、全身全霊取り組んだイベントが終わったりしたときなど、大きな喪失感を味わうだろう。

そんなときは、自分の心を満たし、器を大きくしてくれたこれらに感謝しつつ、自分をさらに高めてくれるもの、質の高いもの、美しいものを心の器に満たして行ってほしい。

また、心にあいたのは穴ではない。扉だ。
あいた扉から、それぞれの目標に向かい、駆け出してほしい。
よくこの時期に「切り替えよう」といわれるが、「切替」というよりも、「起爆」といいたい。
学苑祭や部活などで得たエネルギーを最大限活かして、「学苑祭ダッシュ」していこう。
熱い夏はこれからだ。

なお、「学苑祭ダッシュ」の詳しい意味は、Googleで「学苑祭ダッシュとは」と検索してみてほしい。
この言葉が、本校オリジナルのものであることをAIが教えてくれるだろう。

次に、表彰に移る。「表彰状 第77回学苑祭実行委員会殿

あなたは、学苑祭の未来を切り拓く数々の新たな挑戦や改善を行うとともに、お客さまや生徒、職員を大いに楽しませました。よってここに『下の丸大賞』をおくり、その功績を讃えます。

令和7年6月26日 茨城県立水戸第一高等学校・附属中学校長 御厩 祐司

毎月集会で表彰が行われているが、校内のことで貢献のあった人は対象になっていない。しかし今回の苑実、特に中核・総括の皆さんには、校外の大会等で活躍した人に勝るとも劣らぬ大きな貢献があったと思う。心より感謝するとともに、これからの「学苑祭ダッシュ」でも全体を牽引してほしい。